

## 旧赤羽台東小学校に係る利活用計画（案）

コンセプト

「人が集い、人を育み、未来への希望を紡ぐまち」

基本的考え方

○当施設跡地（以下「当跡地」という。）は、旧赤羽台中学校施設敷地とあわせ、平成19年3月に学校施設跡地利活用計画を策定した。利活用の基本的方向としては、「教育関連施設の誘致」「都市計画公園の整備」「その他、周辺地域における高齢者人口の増加等を踏まえた地域コミュニティの場の整備について検討」と位置付けている。

○利活用計画の進捗としては、旧赤羽台中学校跡地に東洋大学情報連携学部が開設されたほか、その南側用地には、同大学ライフデザイン学部の開設を予定（平成33年4月）している。また、近接地に（仮称）赤羽台のもり公園の整備を進めているところである。こうした情勢変化を踏まえ、現行の利活用計画を見直し、平成30年度に利活用計画を改定することとした。

○東洋大学ライフデザイン学部が開設される平成33年4月以降、当跡地周辺には4,000人規模の学生が過ごすようになり、新たなにぎわいが生み出されることとなる。福祉系学部を含めた東洋大学との更なる連携強化を図り、また、学生街としての魅力を高めていくことで、「教育先進都市・北区」をより確かなものにしていくことが望ましい。

○児童相談所を含めた複合施設（以下「複合施設」という。）を整備することは、現在、北区としての大きな課題である。複合施設の整備には一定規模以上の敷地面積が必要であり、学校施設跡地を除いては確保が難しい状況にある。また、複合施設には区内全域からの利用が見込まれるため、利便性の高いエリアに整備することが望ましい。当跡地は、赤羽駅から近い位置に立地しているため、広域的な行政サービスを展開するうえで効果的な場所となっている。

○当跡地は台地に属しており、起伏のある地形に位置している。駅からのアクセスという点においては、交通のバリアフリー化が課題である。

◎そこで、当跡地については、子ども・教育に関する複合施設を中心としながら、地域のにぎわいを高め、連携・交流を促すとともに、安全性を確保する利活用を基本的考え方とする。

## 基本的方向

### ① 子ども・教育に関する複合施設の整備

赤羽駅から近いという利便性を活かし、子ども・教育に関する施設・機能の複合化を行い、子どもに関する総合的な施設の整備を検討する。子育て・児童虐待・発達・教育等の相談を一元的に対応できるようにするほか、子育て世帯が伸び伸びと過ごすことのできるひろば空間について検討する。また、複合施設の運営に当たっては、児童福祉・教育施策の充実・強化が図れるよう、東洋大学と協議を進めていく。

### ② 魅力あるまちづくりのための有効活用

赤羽台周辺地域の状況に留意しつつ、地域のにぎわいに資する土地利用や利便性の向上、また、安全なまちづくりにつながる土地利用について検討を進める。具体的には、現行の地区計画において示している「中高層住宅複合B地区」としての活用を誘導するほか、歩行者ネットワークの整備やオープンスペースの確保等について検討する。

## 事業手法

○具体的に利活用を進める際は、用途地域や地区計画に定める土地利用方針との整合性を図りつつ、必要に応じて地区計画の見直しを検討する。

○より有効な土地活用を図るため、UR都市機構の用地との一体的な活用について検討し、土地利用の方法等について機構と協議を進める。

○売却または貸付の決定にあたっては、北区学校施設跡地利活用指針に基づき、将来的な土地利用のあり方を踏まえ十分に検討する。